

令和7年度 小平市立小平第十三小学校 学校評価計画表							
学校教育目標		21世紀をたくましく生きる子どもたちを育てることを目指し、以下の教育目標を設定する。 ◎自ら考え行動する子ども(重点目標)・仲良く助け合う子ども・明るく元気な子ども					
目指す学校像(ビジョン)							
【目指す学校像】		子どもたちのみならず、教職員・保護者・地域が、「自ら学び、かかわり、他と共に」を共有しながら、自己の向上を図り、共に育てる拠点としての学校。					
【目指す児童像】		自ら学び、かかわり、他と共に生きる子ども					
【目指す教員像】		自ら考え行動し、常に研鑽を積み、自己の向上を求め続ける教職員					
前年度までの学校経営上の成果と課題							
【成果】特別活動の研究を通した学級会の展開の仕方、たてわり班活動やクラブ活動など異学年交流の工夫などにより、自分の考えを大切にしたり、発信したりできるようになった児童が増加した。		【課題】全校で統一したあいさつの仕方の実施や生活のきまり「スマイル13」のさらなる発信などにより、授業規律や学校生活上のきまりを守ろうとする姿勢の改善が必要である。					
	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	取組指標		成果指標	
学力向上	児童が「自ら」「他と共に」学ぶ授業を推進するとともに、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図る。	各学年の発達段階に応じた「自ら」「他と共に」学ぶ授業を推進するとともに、学習者用端末を積極的に活用する。	①授業規律の確立 ②児童が相互に学び合い・高め合う授業の日常的な実践 ③学習者用端末を中心としたICT教育機器の活用と研修の充実 ④授業アンケートの実施	4	教職員の取組評価(1～4)の平均で、3. 5ポイント以上	4 ワークテスト(国語・算数)の到達率80%が学級の9割以上	
			3	教職員の取組評価(1～4)の平均で、3ポイント以上3. 5ポイント未満	3 ワークテスト(国語・算数)の到達率80%が学級の8割以上9割未満		
		地域や家庭の協力を得ながら日々の授業を充実させ、基礎的・基本的な内容の定着と徹底を図る。	①学習補助員や地域人材の活用と個別指導 ②東京ベシック・ドリルや学習アプリの活用 ③習熟度別によるきめ細かい算数教科の指導 ④家庭学習の実施と充実(低学年30分 上学年10分×学年)	2	教職員の取組評価(1～4)の平均で、2. 5ポイント以上3ポイント未満	2 ワークテスト(国語・算数)の到達率80%が学級の7割以上8割未満	
				1	教職員の取組評価(1～4)の平均で、2. 5ポイント未満	1 ワークテスト(国語・算数)の到達率80%が学級の7割未満	
健全育成(いじめ防止)	「他と共に」の意識を涵養すると共に、共に認め合い高め合う児童の姿が日常的に見られる学校づくりを推進する。	いじめの未然防止と早期発見・早期対応に取り組み、根絶を図る。	①ふれあいアンケートの実施と分析 ②いじめ防止にかかわる道徳授業の実施(年3回以上) ③特別活動を中心としたよりよい人間関係形成を重視した活動の充実 ④いじめ防止校内委員会の充実 ⑤生活のきまりの活用 ⑥あいさつ運動の実施 ⑦サポート会議の活用 ⑧委員会・クラブ・たてわり班活動の充実 ⑨全教員が週1回以上の学校ホームページ更新	4	教職員の取組評価(1～4)の平均で、3. 5ポイント以上	4 いじめの解決率100%	
				3	教職員の取組評価(1～4)の平均で、3ポイント以上3. 5ポイント未満	3 いじめの解決率90%以上100%未満	
		学校は集団の場ということを認識させ、他者との関わり合いを重視した指導に取り組みとともに、その様子を学級だよりやホームページを使って発信し、啓発を図る。		2	教職員の取組評価(1～4)の平均で、2. 5ポイント以上3ポイント未満	2 いじめの解決率80%以上90%未満	
				1	教職員の取組評価(1～4)の平均で、2. 5ポイント未満	1 いじめの解決率80%未満	
特別支援教育	一人一人の児童のよさを伸ばし、個に応じた指導及び特別支援教育を推進する。	特別支援教育コーディネーターを中核として校内委員会の充実を図り、他の教員、機関等との組織的な対応を推進する。	①特別支援教室の効果的運営□ ②特別支援巡回指導の活用□ ③個別指導計画の作成と活用□ ④特別支援校内委員会の効果的な運営□ ⑤こげら支援シートの活用□ ⑥児童一人一人の正確な見取り□ ⑦「こだいらこれだけは」に基づく環境の整備(ホワイトボードの活用、教室前面の掲示板等)□	4	教職員の取組評価(1～4)の平均で、3. 5ポイント以上	4 保護者・地域アンケートの「特別支援教育」の項目で肯定的回答率90%	
				3	教職員の取組評価(1～4)の平均で、3ポイント以上3. 5ポイント未満	3 保護者・地域アンケートの「特別支援教育」の項目で肯定的回答率80%以上	
		ユニバーサルデザインの考え方に基づく教室環境の整備と、指導の充実を図る。		2	教職員の取組評価(1～4)の平均で、2. 5ポイント以上3ポイント未満	2 保護者・地域アンケートの「特別支援教育」の項目で肯定的回答率70%以上	
				1	教職員の取組評価(1～4)の平均で、2. 5ポイント未満	1 保護者・地域アンケートの「特別支援教育」の項目で肯定的回答率70%未満	
体力の向上	運動に親しむ態度を養うとともに、健康の保持増進と体力の向上を図る。	芝生の校庭での活動を充実させ、「運動好きの子ども」の育成を図る。	①休み時間の校庭での活動計画 ②なわとびやマラソンの実施と取組強化 ③裸足の運動会の実施に向けた取組の充実 ④体力テストの結果を基にした体育の指導の工夫	4	教職員の取組評価(1～4)の平均で、3. 5ポイント以上	4 児童のアンケート調査の「体力向上」の項目で肯定的回答率90%	
				3	教職員の取組評価(1～4)の平均で、3ポイント以上3. 5ポイント未満	3 児童のアンケート調査の「体力向上」の項目で肯定的回答率80%以上	
	健康にかかわる情報交換を日常的に行い、保持増進を高める指導を徹底する。	①様々な感染症への理解と予防の徹底 ②「早起き、早寝、朝ご飯」の啓発活動 ③基本的な生活習慣の確立 ④栄養士と学級担任による食育の授業	2	教職員の取組評価(1～4)の平均で、2. 5ポイント以上3ポイント未満	2 児童のアンケート調査の「体力向上」の項目で肯定的回答率70%以上		
			1	教職員の取組評価(1～4)の平均で、2. 5ポイント未満	1 児童のアンケート調査の「体力向上」の項目で肯定的回答率70%未満		
ライフ・バランス・ワーク	働き方を見直し、ライフ・ワーク・バランスのとれた健康的な教職員集団を目指す。	スクール・サポート・スタッフの活用や会議の精選を通して、時間的・精神的なゆとりを生み出すと共に、教職員自らが校務遂行の効率化を徹底する。	①C4thの積極的な活用 ②月4回の定時退勤日の設定 ③教員の年次有給休暇の15日取得 ④教員の残業時間月平均45時間以内 ⑤管理職の積極的な休暇取得 ⑥副校長補佐の計画的・積極的な活用 ⑦スクール・サポート・スタッフの計画的・積極的な活用 ⑧働き方改革に向けた、教員自らの目標設定と実践。	4	教職員の取組評価(1～4)の平均で、3. 5ポイント以上	4 月の時間外勤務時間が45時間以下の教職員90%以上	
				3	教職員の取組評価(1～4)の平均で、3ポイント以上3. 5ポイント未満	3 月の時間外勤務時間が45時間以下の教職員80%以上90%未満	
				2	教職員の取組評価(1～4)の平均で、2. 5ポイント以上3ポイント未満	2 月の時間外勤務時間が45時間以下の教職員70%以上80%未満	
				1	教職員の取組評価(1～4)の平均で、2. 5ポイント未満	1 月の時間外勤務時間が45時間以下の教職員70%未満	